ともしび

第137号
平成25年７月10日

題字は（故）黒川利雄博士

宮城県がん征圧イメージキャラクター

検診の特色

- 高い精密検査受診率と高い早期がん発見率
- 専門医療機関紹介
- 高い信頼性に基づく精度管理
- 一貫したデータ管理

目　次

公益財団法人１年目を終えて…… 2
宮城県がん検診フォーラム開催される…… 6
「黒川利雄がん研究基金」平成25年度研究者決定…… 8
胃がん検診車「きぼう８号」完成！・子宮がん検診車「しあわせ号」リニューアル…… 9
第52回日本消化器検診学会総会仙台で開催……11
第31回全国よろこびの会総会……12
ホッとサロンin仙台に会場を提供することになりました！……13
「登米市健康フェスティバル」開催・街頭活動推進委員会……14
がん総合相談のご紹介・がんなんでも相談・がん検診受診券……15
ご寄付をいただいた方々・継続寄付のお願い……16

公益財団法人　宮城県対がん協会

公益財団法人１年目を終えて

公益財団法人　宮城県対がん協会
会　　長　　久　道　　茂

はじめに

財団法人宮城県対がん協会は、昭和33年９月、わが国のがんを征圧することを目的として設立されました。今年の創立記念日には満55年となります。これまでの事業をあらためて振り返り、平成20年12月の公益法人制度改革関連法案の施行に伴い、公益財団法人への移行を申請し宮城県知事の認可を得て平成24年４月１日から新に「公益財団法人宮城県対がん協会」として発足いたしました。新しい法人に移行して１年になりますので、公益財団法人１年目を振り返ってみたいと思います。

新法人の公益事業とは

宮城県対がん協会は、全国に先駆けて組織的ながん集団検診を開始し、以来がん予防事業を通じて、宮城県民のがん発生の予防とがん死を減少させるため寄与してまいりました。

本協会が、これまで行ってきた各種がん検診、がん予防の普及活動、検診受診勧奨、研究助成、地域がん登録、検診精度向上のための精度管理、がん患者と家族のための相談など多くの事業を行ってまいりました。これらは全て公益事業であり、公益財団法人になる前から、本協会は「特定公益増進法人」としての指定も受けておりましたので、新法人になって改めて行う事業はそれほど多いわけではなく、これまでの公益事業をさらに拡大発展させること、また、これまでややもすれば事業の拡大が望めなかった「がんの一次予防」と「がん対策普及啓発のための募金活動」などに力を注ぐこととといたしました。

しかし、新法人になって大きく変わったことは、理事会や評議員会などの機能・権限や役員組織構成員の出身母体や人数に法律による制限が掛けられたことです。従来の本協会の組織には、県内各関係団体の代表の方々が数多く役員として参画していただいた関係で、理事会も評議員会も数十人による構成でした。本協会にとって貴重な方々でしたので、従来の役員の方々で新法人の役員から外れた方々を、独自に作った学術顧問、運営顧問になっていただき、

これまで同様本協会に対するご意見を頂く組織を創設しました。その合同会議を昨年11月15日に開催し、新法人になってからの協会運営の状況を報告し、あわせて、最近変わりつつあるわが国のがん対策やがん検診について、がん検診センター所長から「国のがん対策とこれからのがん検診」と題する講演をしていただき、学術顧問、運営顧問の方々からご意見をいただきました。

大震災によるがん検診への影響

検診事業においては市町村および職域に対して、第２次がん対策推進基本計画を踏まえ受診率や精度管理の向上を目標に各種検診事業を実施し、東日本大震災による人口の流出、転居等による検診実施場所や時期の変更など、多少の混乱が見られましたが、実施主体の協力により未検者対策などを実施し当初の年度目標に近づきました。とはいっても、大震災前の平成２２年度の検診実績と対比すると、胃がん検診が189,978人（平成22年度）の－4.76％の180,932人に、子宮がん検診が138,983人（同）から－2.00％の136,200人に、大腸がん検診も61,045人（同）から－0.97％の60,453人に減少し、一方、乳がん検診が51,561人（同）から＋0.16％の51,643人に、前立腺がん検診が4,828人（同）から＋4.08％の5,025人にわずかながら増えました。関連して精密検査件数に増減がみられました。

結局、検診収入は平成23年度よりは増加に転じ当期経常増減額もプラスになったものの、そのプラスは、大震災の年度に実施した本協会全職員の賞与額を大幅に削減したことが平成24年度でも継続したためで、本協会が公益事業をおこなう団体であることを意識した職員の理解と犠牲による経常収支のプラスと考えており、震災以前の状況に回復すべく職員一同で努力しているところです。

地域がん登録の重要性

本協会が宮城県からの委託事業としておこなっている地域がん登録は、日本で初めて、世界で3番目に開始された歴史ある事業ですが、平成24年9月アイルランドでおこなわれた国際がん登録協議会（IACR、世界保健機関の関連機関）年次総会で、宮城県地域がん登録（Miyagi Cancer Registry）が表彰を受けました。表彰理由は、IACRが世界各地域のがん罹患統計をまとめて定期的に刊行している「五大陸のがん罹患」に昭和41年刊行の第1巻（昭和34～35年集計結果掲載）からまもなく刊行予定の第10巻まで継続してデータを提供していることの功績によるものです。今回表彰を受けたのは世界12カ国の17登録、日本からは宮城県のみとなっております。

地域がん登録の重要性は、一般の方々はそれほど感じておられないようですが、地域におけるがん発生の変化を知る上で極めて重要な資料となるのです。しかも継続することが大切なのです。東日本大震災と同時に発生した福島の原

発事故によって放射線被ばくの影響を知るべく様々な対策が採られております。福島県民、とくに小児の検診で甲状腺がんが十数名発見されており、また今後も毎年発見されると考えられますが、それらの数値が、事故前より増えたのかどうかは不明です。何故なら、事故以前の地域がん登録のデータが、福島県の場合全くないからです。今からでは推定すら出来ません。これに比べて、宮城県は過去50年以上のがん罹患データがあるので、がん罹患の変動を知ることが出来るのです。

科学的根拠を得るための調査研究

本協会が実施している調査研究事業では、従来と同じく、がんの予防・疫学、検診方法、検診評価等がん検診に関するあらゆることに関して、東北大学との共同作業をおこなっており、関連する研究助成も東北大学医学部の関係教室に対しておこないました。国が行う厚生労働省や文部科学省の調査研究事業には協会の医師が積極的に参画し、主任研究者や共同研究者として役割を果たしております。目的とするところは、がん検診は「科学的根拠に基づいて有効性が評価されたもの」を「正しくおこなう」ことであるという信念で、住民が安心・信頼して受診できる体制を作ることであります。決して「安かろう悪かろう」という検診をしないという役職員一同の基本的考え方に拠っております。

われわれは、各種がん検診の死亡率減少効果を調査し、がん罹患曲線（上昇する場合も下降する場合もある）と死亡率曲線を比較し、その乖離状況が特にがん検診を受けている年齢層に現れることを証明しました。検診を受けた集団の死亡率減少に寄与していることの結果です。

また、X線検査による放射線被ばくの影響が白血病発生と関係があるかどうかの研究にも、この地域がん登録のデータが活用され、10数年の長期追跡研究から、エックス線検査を一度でも受けた集団と一度も受けたことのない集団を比較し、結果は、両群の白血病発生に統計学的にも差がなかったことを証明しています。

これらの研究には地域がん登録データが必須です。われわれは、黒川利雄先生や瀬木三雄先生など、先人の始められた仕事に大いに恩恵を受けているのです。また、これを宮城県が大切な事業として営々と続けられたことに敬意を表したいと思います。今では、日本全国47都道府県で地域がん登録が実施されており、近い内に議員立法による「がん登録法」が制定されるという機運が持ち上がっております。このような時期に、Miyagi Cancer Registry がIACRから表彰されたことは極めて意義深いものがあります。

受診率向上のために

現在、日本国民の二人に一人ががんに罹患（発生）し、三人に一人ががんで死亡するという重要ながん対策として、平成19年には国が制定した「がん対策基本法」が施行されました。

国はがん対策基本計画を策定し、75歳未満の方々のがん死亡率を10年後20％の減少を、5年後のがん検診受診率を50％にするという目標を立てました。平成24年度では、前の計画の評価を基にして、第2次がん対策推進基本計画がまとめられました。５年ごとに見直すことになっているからです。この５年間でがん死亡率は8.8％減少しましたが、これをさらに減少させようとするものです。

がん検診の受診率も、第一次の目標50％をはるかに下回っているため、改めて同じ目標値を設定しています。喫煙率も男女合わせて12％にしようとするものです。しかし、宮城県は全てのがん検診受診率を70％に設定しています。

目標は高くすべきです。なにしろ欧米のがん検診は、ほとんどが70％を超えているのです。

宮城県対がん協会の使命

本協会の使命は、人々ががんにならないように予防する対策、また、がんになってもそれで命を落とさないですむように早期発見・早期治療のための精度の高いがん検診を普及することです。そのために、がん検診センターの医師を中心に各種診断委員会の先生方や放射線技師、検査技師、看護師、保健師、病歴管理士や事務職員らが協会独自の研究費や厚生労働省などの外部研究費を得てがん予防や検診に関する研究を行っていますし、本協会に設置された「黒川利雄がん研究基金」を用いて全国に公募し、若手がん研究者に対する研究助成も行っています。さらに、数年前から行っているがん患者やその家族の心配事に応じるための医師による「がんなんでも相談」や、宮城県の委託事業「宮城県がん総合支援センター」を協会内に設置し、在宅で療養中又は外来通院されているがん患者さんやその家族の方々、在宅がん患者さんの診療、看護、介護などに携わる関係者の方々を支援する仕事も行っています。

創立以来５５年、多くの方々の命を救ってきた自負心と誇り高い仕事に協会役職員と共に、自分も参画出来たことに深い感銘を覚えます。これまでにも多くの困難が数々ありました。財政的にも人材的にも全くよちよち歩きのがん対策事業がよくぞここまで続いたものだと思います。東北大学をはじめとして、医師会、県・市町村の行政、財界、農協や婦人会などの各種団体、報道機関など多くのよき理解者の方々のお蔭と言っても過言ではありません。

本協会が「公益財団法人」となり、これまでにも増して公益性の高い事業を展開し、がん征圧の目標に向かって役職員一同邁進する覚悟であります。関係各位におかれましては、これまでにも増してご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

宮城県がん検診フォ

従来、健康保険によるピロリ菌の除菌対象は胃潰瘍や十二指腸潰瘍などに限られていましたが、今年２月下旬に適用範囲が拡大され、ピロリ菌感染による慢性胃炎にも保険が適用されることになりました。

そのような状況をふまえ「ピロリ菌除菌時代の胃がん検診を考える」をテーマとして当協会ではじめて宮城県がん検診フォーラムを平成25年２月１日に仙台のトラストシティカンファレンスにて開催いたしました。

座長はがん検診センター渋谷所長がつとめ、がん検診センター加藤消化器担当科長、北海道大学病院光学医療診療部助教間部克裕先生がそれぞれ講演を行った後、登米市千葉ますみ健康推進課長、大崎市大谷みち子健康推進課長補佐を交えてパネルディスカッションを展開しＡＢＣリスク分類を対策型の検診に導入した場合の実情から懸念される問題点やピロリ菌の除菌をおこなった人が検診は不要と誤解しないように正しい知識の啓発と必要性を再確認してもらうディスカッションを展開いたしました。

会場には医師を含む、多数の方が来場され、この話題に対する関心の高さが伺われました。

ーラム開催される

■ パネルディスカッションの要約

「ABC分類単独では胃がん検診の代用にはならず、画像検査の併用を必須とする」ことを前提として

◎胃がんリスク評価（ABC分類）と現在の胃がん検診の関係をどうするか

（行政の立場）

＊自治体では採血を委託している検診が個別・集団により病院・団体が煩雑なうえ、近年は随意契約から入札という流れの中で一次検診部分に限る料金でのみ入札する傾向になっており、管理の部分をどこが担うのかが重要

＊リスク評価後の画像診断が内視鏡とした場合、内視鏡のキャパシティや予算措置上で不安をぬぐえない

（医師の立場）

＊血液データと画像のデータを一元管理できるようなセンター的なものが必要

＊データ管理できない地域のためにも従来型の胃がん検診を残しておくことも必要

◎ピロリ菌感染の除菌治療と胃がん検診の関係をどうするか

（行政の立場）

＊リスク評価（採血）だけ受診して画像検診は控えてもよいとか、除菌すれば胃がんにはならないという誤解を市民がもたないか懸念

＊リスク評価と画像診断により除菌の対象者とする年齢設定については全年齢を対象とすべきか、仮にそうした場合に住民検診からは見えてこない職場検診の受診動向を把握・集約することが受診率拡大に向けての課題

（医師の立場）

＊職場検診ほどリスク評価の効果は期待できるが教育啓発をしっかり行い、画像検診を組み込ませることが必要

＊住民への啓発も重要だが医療機関への啓発も必要になる、同時にガイドラインの策定等も進めていく

＊胃がん予防を目的とした医療行為である除菌について、情報をどのように発信していくかが課題

「黒川利雄がん研究基金」
平成25年度研究者決定

宮城県対がん協会には、平成元年に初代会長故黒川利雄先生のご遺志に基づき「黒川利雄がん研究基金」が設置され、毎年、がんの予防及び早期発見、治療に関する技術の開発等に係わる若手研究者への研究助成が行われています。

24回目を迎えた本年度の研究助成総額は220万円で、１件あたりの研究助成金は100万円を限度として１月から３月まで全国に公募を行ったところ、７件の申込みがありました。

５月14日に「基金」の運営委員会を開催し、申請内容を慎重に審査した結果、下記の４名の研究者が選ばれました。一回目から数え103名の研究者に対して総額6,690万円の助成金を送ったことになります。

６月11日に仙台市内のホテルにおいて行われた研究助成金の贈呈式では、当協会の久道茂会長より「研究助成金は、協会創立以来の目標であるがん征圧と黒川先生の崇高なる遺志を継承した研究費であり、また、全国からがん撲滅を願って寄せられた貴重な助成金ですので、どうか有効にご活用くださいますようお願いします」と挨拶があり、続いて、「基金」の下瀬川徹運営委員長（東北大学病院長兼副学長）から選考までの経過報告がされ、渋谷大助がん検診センター所長から研究者の紹介が行われました。

続いて久道会長から研究者１人ひとりに研究助成証書と研究助成金が贈呈され、あわせて黒川先生が座右の銘としていた「山上に山あり　山また山」を刻んだ碑石板が贈られ、最後に研究者を代表して武田賢先生より謝辞が述べられました。

黒川記念室を見学する研究者

後列左より田勢所長、下瀬川委員長、渋谷所長、加藤事務局長
前列左より玉井先生、豊島先生、久道会長、三木先生、武田先生

平成25年度『黒川利雄がん研究基金』研究助成対象及び研究者

	研究主題	氏名	所属	助成金
1	レチノイン酸代謝を制御するがん幹細胞関連遺伝子の同定	玉井恵一（35歳）	地方独立行政法人宮城県立病院機構 宮城県立がんセンター研究所	60万円
2	卵巣がんの早期発見に向けた卵管采部の病理学的検索および血中循環DNA測定	豊島将文（39歳）	東北大学病院 産婦人科	50万円
3	ストレスホルモンと子宮内膜癌：治療標的因子としてのコルチゾールシグナルの解明	三木康宏（42歳）	東北大学 災害科学国際研究所 災害医学研究部門	60万円
4	頭頸部癌に対するadaptive radiotherapyの適応確立に向けた基礎研究 ：放射線治療期間中に観察された頸部容積減少についての検討	武田賢（46歳）	東北大学大学院 医学系研究科 保健学専攻	50万円

※　年齢、所属は平成25年３月現在（申請時）

胃がん検診車「きぼう8号」完成!!

「きぼう8号」は胃集検用デジタル検診車です。

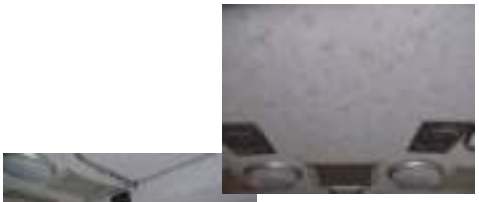
「きぼう８号」は当協会が昭和35年（1960年）に世界初の黒川・西山式胃がん検診車「日立号」を完成させて以来、通算で52台目の胃がん検診車です。

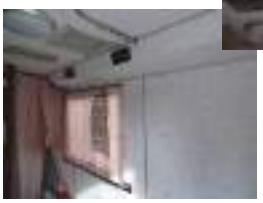
当協会における胃がん検診は平成18年度よりデジタル化への移行が進み、今回さらにデジタル化を加速するために画像記録効率に優れたI・ＩＤＲ装置を２台搭載した胃がん検診車を製作いたしました。

平成25年５月23日に命名披露式が執り行われ、宮城県民の皆様の健康保持増進にお役に立つべく、５月27日より県内各地を巡回いたします。

子宮がん検診車「しあわせ号」リニューアル

「しあわせ号」は子宮がん検診車として、県内を巡回し毎年３万人以上の検診を実施しています。このほど検診車の内装がリニューアルされました。明るい内装と和やかな雰囲気でさらなる受診拡大を目指していきます。





平成25年度（2013年度）「がん征圧スローガン」が決定しました！

最優秀賞

「がん検診　いつ受けるの？　今でしょ!!」

鹿児島県民総合保健センター　徳　重　美保子　さん作

優秀賞

「２人に１人って私かも　早期発見がん検診」

群馬県健康づくり財団　山　口　泰　子　さん作

「健康は　自分で勝ち取る　金メダル」

石川県成人病予防センター　三　浦　真寿美　さん作

平成24年度女性のがん予防等推進事業

平成24年度も宮城県より県内の大学や専門学校の女子学生等を対象に、がんに関する正しい知識の普及啓発を行うとともに、がん検診の受診勧奨を行うことを趣旨とした活動の委託を受け、講演会を実施いたしました。

講演では、おざわ女性クリニック院長小澤信義先生が「20代に急増する子宮頸がん予防にはHPVワクチンを！　早期発見には検診を！」の内容でユーモアたっぷりのお話をされ、また中川産婦人科院長岡村智佳子先生には「女性の健康～輝ける貴女の未来のため

に～」と題して興味深い内容の講演を、県内の大学・専門学校計８校で実施いたしました。

講演会では子宮頸がんが若い女性に増えていること、原因はヒトパピローマウイルス（HPV）で、検診とワクチンで予防できることをお話いただきました。

またリボンムーブメント（※）の学生さんにも参加していただき、学生の立場から検診の重要性や子宮頸がんの予防と啓発について呼びかけをしていただきました。

※リボンムーブメントとは…「大切な人に、大切な事を、大切だと伝えよう」をコンセプトに学生の立場から、子宮頸がんの予防啓発を行っている団体です。

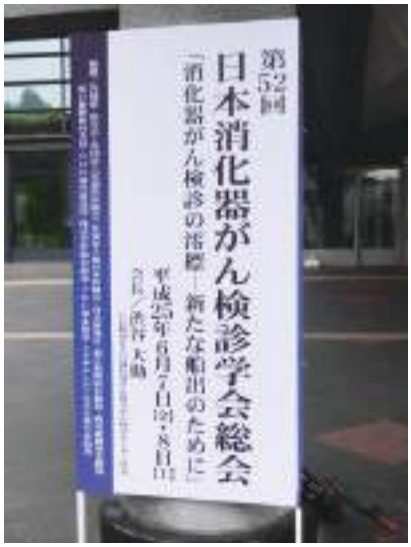
平成25年度宮婦連ブロック別研修会

宮婦連では、今年も県内を７つのブロックに分けて研修会を開催します。

ブロック	開　催　日	会　　場
気仙沼	６月３０日（日）	気仙沼市民健康管理センター
栗　原	７月　３日（水）	金成けやき会館
登　米	７月１０日（水）	志津川自然の家
大　崎	７月１０日（水）	岩出山文化会館
大河原	７月１２日（金）	旧村田第三小学校体育館
石　巻	７月１２日（金）	石巻東部教育事務所
中　央	７月１８日（木）	岩沼市民会館

第52回日本消化器検診学会総会仙台で開催

第52回日本消化器がん検診学会総会が当協会がん検診センター渋谷大助所長が学会長となり、仙台国際センターを会場に平成25年６月７日（金）・８日（土）の両日、全国から約900名の方々を集めて盛大に開催されました。



渋谷学会長の講演「合理的かつ科学的根拠に基づく胃がん検診とは」をはじめ日本の消化器がんの最先端に携わる医療関係者が集結し、今後のがん検診の手法や最新の研究等の情報が発信されました。

また、６月８日の午後には市民公開講座が「がんを防ぐための生活習慣」をテーマに日本消化器がん検診学会理事長である深尾彰先生の司会のもとに開催され、東北大学災害科学国際研究所災害公衆衛生学分野の栗山進一先生「がんの危険を減らす確実な方法とあなたに最適ながん予防法」、東京医科大学消化器内科の大原正志先生「プロバイオティクスと大腸がん予防」、山形大学医学部内科学第二講座の上野義之先生「肝臓がんにならないために」と３人の先生の講演に多数の市民が来場されました。

第31回全国よろこびの会総会

総会で挨拶する石川会長

平成25年６月20日～21日の１泊２日の日程で、「第３1回全国よろこびの会総会」が、青森県浅虫温泉「海扇閣」において開催されました。当日は、青森県知事をはじめ、日本対がん協会塩見事務局長、青森県総合健診センター理事長のご臨席をいただき、全国各支部から大勢の会員並びに関係者の出席もあり盛大に行われました。

表彰では、会員の指導やがん対策の普及広報活動、会の育成発展に貢献した８名に会長賞が贈られました。宮城県支部からは、佐々木春子副会長が受賞されました。また総会では、決算や事業計画が報告され、がんを克服者した「生き証人」として、がんによる犠牲者をひとりでもなくすために、「がん撲滅」を目指し積極的に取り組むことを全員で宣言いたしました。

そのあと、青森県立美術館館長の鷹山ひばり氏による「生きる」と題した特別講演があり、貴重な話を聞くことができました。

みやぎよろこびの会では各支部にて総会開催

支部総会では各支部の特色を活かしながら行われた事業・決算を報告。また、平成25年度事業計画及び収支予算等について審議されました。

総会のあとに懇親会を実施した支部もあり、大いに会話が盛り上がり楽しい総会開催となりました。

［４月から６月実施分］

４月24日（水）　仙台青葉支部
４月30日（火）　色麻支部
５月15日（水）　泉支部
５月22日（水）　金成支部
５月30日（水）　津山支部
６月６日（木）　米山支部

みやぎよろこびの会より福島「しゃくなげ会」総会に出席

４月10日福島市の「ビューホテル」において、福島しゃくなげ会創立40周年記念大会にみやぎよろこびの会からは本部役員４名が出席しました。

大会では、しゃくなげ会小沢道子会長の挨拶のあと、みやぎよろこびの会石川会長から祝辞があり、その後表彰式、講演会と続きました。講演会では「これからの食生活」と題して、福島県保健衛生協会の健康推進課軒名礼子課長より、バランスの良い食事を取ることが健康寿命を延ばすためには大切ですとお話しがありました。

ホッとサロンin仙台に会場を提供することになりました!

ホッとサロンとは「みやぎがん患者支援の会」が主催し、平成21年にスタートしたがんで療養中の方や、その家族の皆様が、語り合い、分かち合い、心休まる時間を共に過ごせる会です。

仙台青葉学院を会場に活動を行なってまいりましたが、平成25年５月からがん検診センター多目的ホールにおいて月１回（下記予定参照）開催されることになり、第１回目の５月17日には約20名の方が参加いたしました。

毎月第３金曜日の午後に開催されます。お近くで悩んでいる方がいたらぜひ教えてあげてください。

◎平成25年度　ホッとサロン開催予定

6月以降の予定

平成25年
- ６月21日（金）
- ７月19日（金）
- ９月20日（金）
- 10月18日（金）
- 11月15日（金）
- 12月20日（金）

平成26年
- １月17日（金）
- ２月21日（金）
- ３月14日（金）

※詳細は
http：//hotsalon-miyagi.jimdo.com
ご参照ください

「登米市健康フェスティバル」開催

第７回市民活き生き健康フェスティバルが５月 25 日（土）に登米祝祭劇場において開催されました。会場には様々なコーナーが設けられ、参加者はスタンプラリーを行いながら各ブースを廻っていました。対がん協会も参加をさせていただき「がん予防コーナー」においてがんに関する健康クイズをおこなった他、顕微鏡でがん細胞を覗いてもらったり、胃の模型によるファイバースコープ体験・乳自己検診法の紹介等がんに関する正しい知識の普及に努めました。当日は、テレビでもお馴染みの西川史子先生による「女医が語るおもしろ健康講和」と題したトークショーが開催され、笑いを交えながらのお話に会場も大いに盛り上がっていました。

街頭活動推進委員会

３月22日（金）ミヤギテレビの「伝言板デス」に出演しました。
仙台市の市民健診の申し込みのご案内や協会で行っている胃がん検診から発見される胃がんの８割が早期がんで、さらに約半数の方は内視鏡で治療されていることなど、早期発見・早期治療のためにも毎年「がん検診」を受けていただくようＰＲしました。

本番前のリハーサル

伝言板デス出演者

無料!「がんの悩みや不安を気軽に相談してください」“がん相談”のお知らせ!!

「がん総合相談」のご紹介

宮城県対がん協会のがん総合相談

宮城県対がん協会は、**医師による無料**の「がん総合相談」を行なっております。

ご家族の治療法や生活、セカンドオピニオンの受け方や患者の支え方など、ご本人やご家族のさまざまな悩み、不安、疑問などの相談に応じます。

完全予約制ですので、電話でお申込みいただき相談日を調整させていただきます。相談は面談方式で、時間はお一人様３０分までとさせていただきます。

相談は無料ですので お気軽にご予約 ください。

宮城県仙台市青葉区上杉５－７－３０
お問い合わせ・予約申込　宮城県対がん協会
022-263-1525（平日10：00～17：00）
面談日時を調整させていただきます。

「がんなんでも相談」のご紹介

宮城県がん総合支援センター

宮城県対がん協会は、**専任の看護師による無料相談**「宮城県がん総合支援センター」を設置して、面談、電話、ＦＡＸ、Ｅメールで対応しております。

○がんと診断された方の不安や問題に対して情報をさがすお手伝いをします。

○患者さんやご家族の方、医療関係者の方々、どなたでもご利用できます。

どんなお悩みでも かまいません。 一度お電話ください。

【受付】
電話022-263-1560（平日9：00～16：00）
FAX 022-263-1548
Eﾒｰﾙ zaitaku-gan@miyagi-taigan.or.jp

あなたの大切な方へのプレゼントに！ おトクな がん検診受診券 はいかがですか？

公益財団法人 宮城県対がん協会

がんは身近な病気なのに、なかなか自分から検診に行くことが少ないのが現状です。定期的に「がん検診」を受けることで、「がんの早期発見」が可能になるのです。
大切な人をがんから守るために、料金がお得な「がん検診受診券」をプレゼントしませんか?

受診券を使ってコースで受けると約50%～20%お得です!

ご寄付をいただいた法人・個人

2012年12月1日~2013年5月31日受付分
順不同・敬称略

■篤志寄付金

財団法人みやぎ婦人会、芳賀芳一、北澤康子、仙台塗装業組合、伊藤怜子、みやぎよろこびの会名取支部、高橋秀明、今橋春男、齋藤たね、若柳婦人会、住友生命保険相互会社、センター募金、職員有志

■特定維持会員

コセキ株式会社、株式会社七十七銀行、同和警備株式会社、株式会社宮城トヨタ商事、株式会社テクニカルラボ、株式会社バイタルネット、株式会社カイゲン 仙台営業所、協業組合仙台清掃公社、東京特殊車体株式会社、同和興業株式会社、チバ器械株式会社、株式会社サン・ベンディング東北、ライズ株式会社、株式会社アイクリーン、東芝メディカルシステムズ株式会社、伏見製薬株式会社仙台営業所、堀井薬品工業株式会社、有限会社タニウチ印刷、オリオシステム株式会社、小泉薬品株式会社

■賛助会員（議会）

大和町議会事務局、東松島市議会事務局

■賛助会員（法人）

有限会社大場土建、株式会社毎日広告社仙台、今野税理士事務所、有限会社おでん三吉、日本製紙株式会社石巻工場、株式会社ひまわり薬局

■賛助会員（医師会）

加美郡医師会：及川正道
気仙沼市医師会：移川二郎、遠藤紘、大里篤志、武田宜之、大友仁、森良一郎、気仙沼市立本吉病院、村岡正朗、笹原政美、齋藤穂積、猪苗代勇、小髙庸一郎、葛但寛、佐々木文秀、三条雅英、森田潔、山本馨、猪苗代盛貞
黒川郡医師会：河野ひろ子、千葉淳
柴田郡医師会：宮上順志、国民健康保険川崎病院
仙台市医師会：髙橋剛、安藤健二郎、萱場英吾、佐藤泰彦、矢田部宏一、中井祐之、綿谷秀弥、三好彰、仙台厚生病院、結城道広、長崎裕、京極士郎、武者盛宏、木下弘志、広南病院、今野豊、仙台市生出診療所、椎葉健一、内藤久実子、松尾兼幸、森洋子、高橋秀典、佐藤彰、菅原伸之、黒澤光樹、多田和弘、中條仁
桃生郡医師会：内海透
名取市医師会：宮城県立がんセンター、名取熊野堂病院 佐々木英彦

■賛助会費（宮婦連）

気仙沼市婦人会連合：川村和賀枝、熊谷美代子、岩井幸子、佐藤洋子、鈴木玲子、小野寺正子、畠山千賀子、菊田りつ子、熊谷洋子、菊田ちよみ、内海みち子、勝倉壽子、吉田瑞枝、梶原かつ江、小山光子、小田島成子、横山栄子、小野寺信子、阿部初子
鳴子地区町内会婦人連絡協議会：遊佐由起子、髙橋絢子、中鉢照子、鎌田りく子、尾形和子、只野勝子、戸津なおみ、加藤富美子、菊池アサ子、加藤尚美、八鍬利恵
大内婦人会：森れい子、作間スエ子
北方婦人会：鈴木洋子、鈴木礼子、東ゆき子、伊藤市子、三浦艶子、皆川洋子、富士原抄子、伊藤成子、千葉正子

■賛助会員（個人）

菊池世津、青木俊子、小野千代子、辻るみ子、亀谷英輝、芋川宏、江刺洋司、中沢きく子、郡山芳治、岩沼宏幸、齋藤多見恵、村上裕一、髙橋久子、加藤秀則、阿部洋、大友美智子、木村けい子、齋藤純子、及川貴司、齋藤千晴、中川知恵、小田切千恵、椎名由実、藤村千恵子、髙橋啓、佐藤秀逸、鷲尾尚子、鈴木ゆき子、佐々木政子、伊藤祥穂、石川宏一、西條靖、斉藤裕一、中嶋隆太郎、石黒典子

賛助会員(個人･法人の継続寄付)募集中

当協会では、がんに関する正しい知識の普及啓発、がんの早期発見・早期治療のための調査研究、がん登録管理等の事業を行っています。このような事業活動は皆様からの尊い寄付により支えられています。

なお、寄付金については**税制上の優遇措置**を受けることができます。個人の方の場合、従来までの「所得控除方式」に加え、新たに**「税額控除方式」**も適用されることになりました。確定申告の際にどちらかを選択して控除を受けることが出来ます。

《 寄付金の種類 》

- **賛助会員寄付**　協会の活動をご支援いただき、毎年ご寄付をしてくださる方
  - 個 人 会 員　　1口　1,000円以上の寄付者（個人）
  - 法 人 会 員　　1口 10,000円以上の寄付者（団体・法人）
  - 特定維持会員　　寄付金の額を定めて「がん征圧運動」に一層の協力支援をいただいている法人
- **篤志寄付**　協会の活動に対する一時的な寄付金
- **黒川基金**　黒川利雄がん研究基金のためと使用を指定した寄付金

がん征圧に向けた、あたたかいご支援ご協力をお待ちしております。

ご寄付のお申込、お問い合わせは下記までお願いいたします。

公益財団法人　宮城県対がん協会・がん検診センター
〒980-0011 仙台市青葉区上杉 5-7-30
TEL 022-263-1525　FAX 022-262-3775